

JAJA REPORT

MIGHTY CROWN 支援プロジェクト特別編

Mighty Crown
The Far East Rulaz



- MIGHTY CROWNハリケーン被災者支援プロジェクト
- プロジェクト1 セント・エリザベス県の女性農家グループ支援
- プロジェクト2 セントアン県ラナウェイベイにおける住宅再建支援
- プロジェクト3 セントアン県の4Hクラブ農家復興支援
- プロジェクト4 ハリケーン被災児童のための就学支援

- Romain Virgo × MIGHTY CROWN
- ジャマイカのメディアで取り上げられました
- 会計報告と協賛紹介
- メッセージ

Mighty Crown

The Far East Rulaz



MIGHTY CROWN

ハリケーン・メリッサ被災者支援プロジェクト

MIGHTY CROWN (マイティー・クラウン) は、横浜を拠点に世界で活躍する日本のレゲエ・サウンド・クルーです。アジア人として初めての世界タイトルを獲得し、世界最高峰のレゲエ・レジェンドとして知られています。2023年以來サウンドシステム活動を休止していましたが、ジャマイカ支援を目的としたチャリティライブイベントを開催するために再活動し、チケット販売とグッズ販売を通じて、総額2,000万円を集めました。

集められた支援金は、ジャマイカ出身の世界的アーティストで、国際支援NGOであるFood For The Poor (フード・フォー・ザ・プア) と協力して被災者支援を行うSean Paul (ショーン・ポール)、独自のGoFundMe (クラウドファンディング) を立ち上げ被災者支援活動を続けるRomain Virgo (ロメイン・ヴァーゴ) に送られました。

さらには2026年3月、支援金の一部をNPO法人LINK UP JAJAに託していただき、4つの支援プロジェクトを立ち上げて活動を行いました。2026年5月にはMIGHTY CROWNのMCであり、プロダクション“Mighty Crown Entertainment”のCEOであるMasta Simon (マスター・サイモン) 氏がジャマイカを訪れ、LINK UP JAJA代表の永村夏美と共に、被災者の方々へ直接支援を届ける4日間のツアーを行いました。



PROJECT 01

MIGHTY CROWN × LINK UP JAJA

セント・エリザベス県マルグレイブの

女性農家グループ「CCOW」に対する農業復興および住宅修繕支援

ハリケーンによって農地が甚大な被害を受けたセント・エリザベス県。山間部マルグレイブ地域の女性農家グループ「CCOW (Cockpit Country of Women: コックピット・カントリー・オブ・ウィメン)」は、農地の壊滅的なダメージにより農作物が全滅しました。CCOWのリーダーであるキャシーに「今、どんな支援が必要？」と聞いたところ、「荒れた農地を耕して農業を復興するためにはマンパワーが必要で、女性メンバーだけでは力が足りない。地域の男性に人件費を支払って農地の整備を行い、CCOWのメンバーでもう一度作物を植え、農業を復興させたい」と具体的な要望がありました。これを受け、2026年3月から5月、農地整備のための人件費を毎週補填し、男性作業員とCCOWメンバーが畑で飯を炊いてみんなで食べるまかないの費用についても支援しました。さらには、ジャマイカの唐辛子スコッチボネットペッパーの種子や肥料、苗を育てるための農業用遮光ネットなどの農業関連物資の購入を行いました。2026年5月15日にはMasta Simon氏が畑を訪れ、CCOWメンバーと対面し、現地の状況を確認しています。リーダーのキャシーは「秋に収穫した野菜の一部を近所の小学校に寄付して、子どもの給食に使ってもらう。自分たちが与えてもらったものを、今度は誰かに与えたい(Give Back)」と意気込んでいます。

受益者：女性農家15名

**支援内容：農地の修復作業に従事した地元男性12名の人件費
種子、肥料、農業資材の提供
CCOWメンバーと作業員の昼食**

地域住民に無料の食事を提供するコミュニティバーベキュー

”Cook Out”の開催

ジャマイカではCook Out (クックアウト) という、地域住民に食事を振る舞う文化があり、ファンドレイジングの役割を果たすこともあります。今回CCOWのCook Outは、昼間にチキンの煮込みとご飯を無料で振る舞い、夜には音楽をかけてジャークチキンと酒類を販売して、収益をCCOWのさらなる活動費に充てるというものでした。MIGHTY CROWNの資金で食材を購入することができたから実現したクックアウトで、CCOWのファンドレイジングを支えることに加えて、地域住民がみんなでご飯を食べ、音楽を聴いて踊ることで、被災後辛い思いをしている人たちの癒しになったのではと思います。

受益者：地域住民と子どもおよそ100名

支援内容：クックアウト食材費とシェフに支払う人件費

住宅修繕支援

CCOWの拠点マルグレイブは、ハリケーン・メリッサによってすさまじい被害を受けました。残念ながら、現時点ではジャマイカ政府からの被災者支援はあまり進んでおらず、被災から半年以上経った今も、屋根を直すお金が無いため雨が降る度に雨漏りしているお宅が無数にあります。今回、CCOWメンバーの中で特に支援を必要とする世帯をグループリーダーが選定して、住宅修繕のための資材購入を行いました。LINK UPJAJAは2025年10月28日のハリケーン上陸直後から被災現場を訪れ、住宅被害の数々を見てきましたが、CCOWメンバーの全壊して瓦礫と化した自宅を見て、被害の深刻さを改めて認識しました。今もなお大変な不便を強いられているにも関わらず、笑顔でたくましく生き抜くジャマイカの人たちの強さ(Resilience: 反発力)に感銘を受けると同時に「この人たちは一体いつまで苦勞を強いられるのか」と思うと、辛い気持ちにもなりました。出会う人すべての生活を今すぐ楽にしてあげることが叶わないとしても、収入を得るための支援や住環境を少し改善する支援によって、ジャマイカの人たちが復興に向けて歩む一歩を後押ししてきたと思っています。リーダーのキャシーは「私たちにしてくれたことがどれだけ大きな意味を持つか、あなたたちは十分に理解していない。日本からの支援がジャマイカ人に与えたポジティブなインパクトは、計り知れないよ!」と感謝の気持ちを熱く語りました。



受益者：5世帯およびCCOWコミュニティトイレ施設
 支援内容：セメント、鉄骨、トタン屋根などの建設資材



PROJECT 02

MIGHTY CROWN × LINK UP JAJA

セントアン県ラナウェイベイにおける住宅再建支援

LINK UP JAJAが拠点を置くセントアン県・ラナウェイベイで、2019年から一緒に支援活動を行っている現地のコミュニティーリーダーが選定した被災者の住宅建設、および修繕を行いました。普段から貧困世帯を支援しているコミュニティーリーダーのカミールは、被災後に自力で復興に向かうことができない社会的に弱い立場にある人たちを、今回の支援対象に選定しました。

受益者：4世帯

支援内容：セメント、ブロック、トタン屋根などの建設資材

事例 01

高齢男性(単身)ジョンソンさん／地域「トップヒル」

ジョンソンさんの自宅も、トタン屋根が飛ぶなどの被害を受けました。屋根は地域住民の協力で何とか修復したものの、体が不自由で子どもを持たない高齢のジョンソンさんが、社会福祉の少ないジャマイカで生きていくのは大変です。日本なら生活保護や介護サービスを受けることができますが、ジャマイカにはそのような仕組みはありません。被災者のジョンソンさんは極度の貧困で、身体も心も辛そうでした。リーダーのカミールは、トイレのないジョンソンさんの自宅にトイレを建設することで、彼の生活の質を少しでも向上させたいという思いで、ジョンソンさんへの支援を打診しました。LINK UP JAJAは、被災前に大変だった人が被災後さらに厳しい状況に置かれている事実を踏まえて、このケースを引き受けました。Masta Simon氏は2026年5月13日にジョンソンさんを訪れ、労いの言葉をかけました。現場に高校生の娘と駆けつけてくれたジャマイカ在住の日本人セレクターBad Gyal Marieことマリエさんは、最も弱い立場に置かれるジャマイカの被災者と対面した後、リーダーのカミールと感慨深げに言葉を交わして「娘にとっても良い経験になった」と話してくれました。



事例 02

父、母、2人の子供からなる家族 父の通称 Shatta (シャタ) / 地域「ベルエア」



極度の貧困家庭で、幼い子供2人を含む4人家族の住宅再建を支援しました。Shattaの自宅は被災によって雨漏りがしていましたが、既存の建物は修復できる状態ではなかったため、家を解体して基礎から家を建設しました。建設中は様々なトラブルに見舞われ、一時は工事が中断したこともありましたが、コミュニティーリーダーや地元の大工の協力で、住宅を完成することができました。このプロジェクトにより、それまでツギハギだらけの小屋で暮らしていた家族の生活環境は劇的に改善しました。貧しい両親が安定した収入を得ることは難しいですが、家族が安心して暮らせる家を確保したことで、幼い子どもが明るい未来を切り開くことの手助けができたのではないのでしょうか。2026年5月14日にMasta Simon氏と対面した父のShattaは「ありがとう。リスペクト」と、言葉は少ないですが、心の詰まった感謝の気持ちを述べていました。

事例 03

3人の子供を抱えるシングルマザー 母の通称「デニス」 / 地域「マウント・オリベット」

デニスがか以前住んでいた木造の自宅は、今回のハリケーンで完全な瓦礫となりました。あまりにべしゃんこで、現場を訪れたLINK UP JAJAは、それがデニスの自宅であると気づかないほどでした。コミュニティーリーダーのカミールが、デニスのためにコンクリートの家の建設を始め、一家はそこで寝泊まりしていたので、古い家の瓦礫の下敷きにならずに済みました。今回、新しい家の施工が資金不足で中断していたため、MIGHTY CROWNの資金でドアなどの建築資材を提供しました。母のデニスは持病を抱えており、定職に就くことができません。子どもの父親が提供する資金だけでは通学費用を賄えず、3人の子どもたちは週の半分ほどしか通学できていません。厳しい現実ではありますが、Shattaのケースと同様に、被災者とその子どもたちが安心して眠れる場所を提供できたことは、とてもポジティブな変化です。以前はボロボロのマットレスに一家全員で寝ていた子どもたちが、今では自分のベッドに嬉しそうに寝転んでいます。LINK UP JAJAはデニス一家の支援を続け、子どもの成長を見守りたいと思っています。



事例 04

小さな商店を営む男性 通称「ラニー」 / 地域「ベルエア」



ラニーの自宅と商店が被災しました。自宅の屋根が飛んで雨漏りがするので、古いタンをリサイクルして修繕を試みたものの、傷んだタンから雨が入って雨漏りするそうです。ラニーは他の多くの住民同様、次のハリケーンに備えて、木造の家を再建するのではなく、時間をかけてでもコンクリートの家を建築すると決めました。貧しい人たちはまとまった資材を購入するお金がないので、何年もかけて少しずつ家の建設を進めるしかありません。“Build Back Better” 「より良い復興」を掲げて強い家を建てようと頑張るラニーに、MIGHTY CROWNがブロック200個を贈りました。自宅を訪れたMasta Simon氏に「世界のMIGHTY CROWNが来た!」とラニーは興奮し、「本当にありがとう!」と感謝の気持ちを表していました。

PROJECT 03

MIGHTY CROWN × LINK UP JAJA

セントアン県の農家復興支援

ジャマイカ・フォーエイチ・クラブ(以下4Hクラブ)は、農業水産省の管轄下にある、ジャマイカの代表的な青少年育成団体です。地域の農家は4Hクラブに登録することにより、支援プログラムや農業トレーニングを受けられるメリットがあります。この度のハリケーンで、セントアン県に100以上登録されている4H農家は大変な被害を受けました。「農作物が全滅して、完全に収入を失った」「200羽飼っていたニワトリが死滅した。事業を再開する資金がない」という野菜農家や養鶏家がたくさんいる中で、4Hクラブは彼らを支援したくても財源がないため、辛い思いで見守っていました。今回MIGHTY CROWNの支援金を利用して農家復興の後押しをしようと、21軒の農家を選定し、必要な支援物資の聴き取りを行いました。2026年5月14日、Masta Simon氏を招いて支援物資の授与式が行われ、受益者の農家がそれぞれの思いを語りました。「被災して農業が壊滅的なダメージを受け、事業を立て直す資金がなく途方にくれていた。MIGHTY CROWNの支援は私たちの復興を後押しする大きな一歩となる。日本の皆さん、本当にありがとう!」



受益者：セントアン県内の農家21名

支援内容：各農家の具体的なニーズに基づいた農業資材(種子、肥料、農業器具、養鶏用ヒヨコと餌など)



PROJECT 04

MIGHTY CROWN × LINK UP JAJA

ハリケーン被災児童のための新学期支援
“Back to School”プロジェクト

ジャマイカの新年度は毎年9月です。“Back to School”（バック・トゥ・スクール）と呼ばれる夏の終わりの就学準備期間は出費が多く、保護者は大変です。現在ジャマイカの公立学校の授業料は無料ですが、制服や教科書は自己負担で、最低賃金が週給15,000円（日給3,000円）のジャマイカで、子どもの制服1着5,000円、教科書代10,000円以上を捻出するのが保護者にとってどれだけ大きな負担であるか、想像頂けると思います。ハリケーンの被災によって保護者が仕事を失ったり収入が減ったりする中で、物価高騰も加わって、市民の暮らしは厳しくなる一方です。現地で活動するLINK UP JAJAが「ジャマイカの人たちは一体何を食べているんだろう」と不思議に思うほど、食べ物の値段も日本よりはるかに高く、市民の生活は圧迫されています。このような状況の中、被災した親御さんが負担する就学準備費用を少しでも軽減し、子どもたちが学校に通えるよう、Back to School支援を行うことを決めました。対象地区はハリケーン被害のひどかった上記4県です。各県の4Hクラブに登録している学生の中から、より支援を必要としている学生を、クラブの

支所長と学校の指導カウンセラーが選定します。選定された受益者は、文具店で利用できる引換券をもらい、教科書や文房具の購入を行います。2026年5月14日に行われた授与式にはセントアン県の学生も招かれ、Masta Simon氏と対面しました。セントアン4Hクラブの支所長であるTedroy Gordon（テドロイ・ゴードン）氏は「日本の皆さんからの支援が、ジャマイカの未来を担う子どもたちを支えます。ジャマイカと日本の絆が、MIGHTY CROWNの資金提供とLINK UP JAJAの協力によって、より強固なものになったことは間違いありません。Big up Japanese!」とメッセージを送りました。

対象地域： セント・エリザベス県、ウェストモアランド県、セント・ジェームズ県、セント・アン県
 対象者：各県50名×4県 合計：200名
 支援内容：文房具店や学用品店で利用できる引換券

支援額

LINK UP JAJAプロジェクト1,2,3の合計	¥ 3,300,000
LINK UP JAJA プロジェクト4	¥ 2,500,000
合計	¥ 5,800,000

Romain Virgo × MIGHTY CROWN

被災者支援プロジェクト

2026年5月15日、Masta Simon氏はジャマイカで最も被害のひどかった地域のひとつであるウェストモアランド県を訪れ、ジャマイカのシンガー Romain Virgo (ロメイン・ヴァーゴ) とLINK UPしました。Romain Virgoは、MIGHTY CROWNからの支援金と自身がクラウドファンディングで集めた支援金を利用して被災者支援の活動を続けており、多忙なスケジュールにも関わらず、毎週どこかの被災者に資材を届けているそうです。この日支援したのは、木造の家が全壊してホームレスになった8人の子どもを抱える母親です。近所の空き家に身を寄せていますが、いつまでも他人の家に住み

続けるわけにいかず、自宅の再建は急務です。この日Romain VirgoはMasta Simon氏と一緒に、建設資材が母親の自宅敷地に運ばれる様子を見守りました。全てを失ったところから再起するのは容易ではありませんが、この支援が初めの一歩を踏み出す後押しになると、Romain Virgoは被災者の力を信じています。近所の人たちに自ら持参した食料パッケージを配るトップアーティストの謙虚な姿勢と優しい人柄に心を打たれつつ、日本とジャマイカの繋がりを強めるMIGHTY CROWNの取り組みに深い感銘を受けました。心から、Respect!



対象地域と世帯数:

ウェストモアランド県	3世帯
セント・ジェームズ県	4世帯
セント・エリザベス県	4世帯
合計	11世帯

支援金額

¥9,088,103

MIGHTY CROWNの被災者支援活動が、ジャマイカのメディアで大きく取り上げられました。

日本のレゲエサウンドがジャマイカのために2,000万円の支援金を集めて被災者支援を行ったというニュースが、現地の新聞社、ラジオ局、政府広報で取り上げられました。

- Jamaica Gleaner (新聞社)
- Jamaica Star (新聞社)
- IRIE FM (ラジオ局)
- Jamaica Information Service (政府広報)



会計報告

Food for the Poor Sean Paul Foundation	¥4,507,000
Romain Virgo Foundation	¥9,088,103
LINK UP JAJA	¥5,800,000
支援金額合計	¥19,395,103

協賛企業

YOKOHAMA Bay Hall、club JOULE、株式会社 ケーエムミュージック、株式会社 チッタワークス
株式会社 flagship、株式会社フリーウェイ、株式会社 OVERHEAT MUSIC、24×7 RECORDS
FIVE STAR JAPAN,INC.、NEWTRAL、AVALANCHE Gold & Jewelry、ESP TRICKSTAR、BROTURES
HOME GAME、横浜中華街占い館 愛梨、岩井の胡麻油株式会社、株式会社 GAREKI、株式会社サンタグロース
三和技建 株式会社、株式会社アルファコーポレーション、247WORKERS、SAGAMI、fast step株式会社

レゲエを生んだ国ジャマイカがハリケーン被害にあった事は、自分達にとって他人事とは思えない出来事だった。レゲエという音楽を通じて世界中の人達と繋がり、ジャマイカのカルチャーが自分達の人生を明るく楽しくしてくれた。微力ではあるけど、支援する事で少しでも困ってる人達のサポートが出来たらと思って、みんなの協力のもと、このプロジェクトを実現することができた。

自分は東日本大震災、熊本地震、能登半島地震でボランティアをしてきて、支援を行う中で感じた事は、綺麗事抜きで、たとえ小さな支援でもそれが誰かの生きるパワーに繋がるということ。

今回LINK UP JAJAとタッグを組んで、これまで見た事のないジャマイカを見て、感じて、「こんな場所には絶対に支援が届かないだろう」と思われるような地域にまで、実際に支援を届けることができたと思う。

全ては縁です。 Stay Strong and Positive ! One !

Masta Simon from MIGHTY CROWN

被災直後、全壊した家々を眺めながら「LINK UP JAJAのような小さな団体に、一体何ができるのか」と無力さを感じていました。しかし、これまでLINK UP JAJAが地域で共に活動してきたコミュニティーリーダーに勇気づけられ、日本の皆さんの温かいご支援に支えられながら、支援活動を続けることができています。今回MIGHTY CROWNが当法人とパートナーシップを結んでくださることにより、より多くの被災者へ支援を届けることができ、本当に有難く思っています。4日間の旅の道中では、「MIGHTY CROWN!」「一緒に写真撮って!」と地元の方々がMasta Simonさんに駆け寄る姿を目にし、MIGHTY CROWNが長年にわたりジャマイカで築いてきた日本人サウンドとしてのプレゼンスの大きさと、歴史の重みを感じました。そして、両国のつながりを深めてきたトップサウンドと共に活動できることを、心から光栄に、そして誇りに感じています。セントエリザベス県で資材を運んでいる際、トラックに積まれたトタン屋根を見ながら「地球の裏側から送られた支援が、ジャマイカのこんな山奥に届いている」という事実が胸が熱くなりました。貴重な機会をくださったMIGHTY CROWNと、この支援活動を支えてくださった皆様に心よりお礼申し上げます。同時に、ジャマイカの復興にはまだまだ時間がかかることを踏まえて、未永く温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

NPO法人LINK UP JAJA 代表 永村夏美

JAJA会員さん大募集!

NPO法人LINK UP JAJAを支えてくださっている皆さん、本当にありがとうございます。

お陰様で、お陰様で、2020年12月に発足したNPO法人LINK UP JAJAは2026年4月1日を以って7年目(令和8年度)を迎えました。法人の活動は、皆さんから頂く年会費や寄付金を利用して運営しています。年会費は3,000円で、会員の皆さんには年に4回会報「JAJA REPORT」を郵送し、法人の活動についてご報告しています。

NPO法人LINK UP JAJAの年度は毎年4月から翌年の3月で、年会費は銀行振込やクレジットカード決済でも納めて頂くことができます。ジャマイカでの取り組みを続けていくため、また、取り組みを発展させ持続可能な形にしていくために、皆さんの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

銀行振込で寄付金や会費を納めてくださる皆さまへ

ご入会をご希望される方は年会費3000円をお振込み頂き、info@linkup-jaja.org にメールをお願いします。本文に【①振込名義人 ②振込金額 ③お振込日 ④会報送付先のご住所とお名前 ⑤領収書を希望される方は「領収書希望」とご記入ください。領収書はPDFファイルで送付させていただきます。**メールを頂けませんと会報を発送することが出来ませんので、ご注意ください。**温かいご寄付も下記口座までお願い致します。

振込先: 楽天銀行 第三営業支店(支店番号 253)

(普通) 7194483 エヌピーオーハウジンリンコップジャジャ

クレジットカード決済で楽ちん! Syncable

NPO支援のプラットフォームSyncable(シンカブル)では、クレジットカード決済で会費を納めて頂ける他、自動更新を選んで頂くと毎年度自動的に会費を納めて頂くことができます。NPO法人LINK UP JAJAの年会費(3,000円)の引き落とし日は毎年3月1日です。単発の寄付をして頂くこともできます。

<https://syncable.biz/associate/LINKUPJAJA>

Syncable



～会員登録の流れ～

①サイトにアクセス



②「年会員になる」を選択



③必要事項を記入



④お支払い
会員登録完了!



編集人: NPO法人LINK UP JAJA

コロナ禍真ただ中の2020年、ジャマイカを支援するため立ち上がる。コロナによる経済的被害に苦しむものづくり職人を「フェアトレード事業」という形で応援。2022年、仕事に就けず貧困で社会との繋がりを持ちづらいジャマイカの障害者を支援するため事業を立ち上げ、活動の柱とする。障害を持つ人と手織りやアートに取り組み、彼らが社会から排除されず、地域の中で認められて自分らしく生きることを目指して支援している。

NPO法人LINK UP JAJA(リンコップジャジャ)

大阪府大阪市鶴見区鶴見2丁目22番5-603号

info@linkup-jaja.org

WEB <https://linkup-jaja.org/>

NPO法人LINK UP JAJA

リンコップジャジャ

@LINKUPJAJA